

2021年08月24日

中野区長 酒井直人 様

## 中野駅新北口駅前エリア拠点施設整備の今後の進め方に関する要望書

一般社団法人 東京都建築士事務所協会(TAAF) 中野支部  
支部長 赤星 義彰  
公益社団法人 日本建築家協会(JIA) 関東甲信越支部 中野地域会  
代表 白江 龍三

謹啓

中野区の建築・都市・まちづくりの向上への日頃のご努力に、地域の専門家団体として敬意を表します。

さて、中野駅新北口駅前エリア拠点施設整備については、本年5月に区と民間事業者との基本協定が締結され、中野の表玄関にあたるこの区域の整備施行が具体的に動き始める段階に入りました。つきましては以下の2点を切に要望いたしますので、早急にお取り計らい下さい。

敬白

記

### 1. 区民、利用者、地元専門団体等との意見交換の場の設置について

中野駅新北口駅前エリア再整備事業計画の策定過程では、「民間事業者公募は建築のプロポーザルではなく事業プロポーザルであり、あくまでも事業施行者選定のためのものなので、具体的な計画案やデザイン案はその先の話である」というご説明を、所轄の皆様との意見交換会などで幾度も頂いておりました。

その理解のもと、私どもは繰り返し、事業進行中もその具体的な計画内容につき、区民や地域の専門家等との意見交換の場の設置を事業施行者に対して義務付けるよう、要望して来ました。(一例として、プロポーザルの募集要項に対する私ども2団体からの2020年2月27日付の連名要望書をご参考に再添付します。)

そのような中、6月30日の私どもとの意見交換会においては、上述の過去のご説明と異なり、プロポーザル案が具体的な計画のベースになる旨、また案からの大幅な変更はできない旨のご説明がありました。そして事業施行予定者からは、計画内容についての地域との意見交換の場を設置する意思を表明して頂けませんでした。

公共空間に対するデザインレビュー(注\*)を市民参加で行うことは、先進諸国では既に一般的とも言えますが、中野区は住民参加において先進性を発揮した歴史があり、ぜひ率先して、新北口駅前エリアの再整備にて、具体的な計画のデザインレビューを設定して下さい。

意見交換等、レビュー体制の設置が事業施行予定者に無い場合は、これを区の指導にて効果的に設けさせ、かつ形骸的な手続きに終わらせないよう、指導をお願いします。

現状のままですと結果として、行政計画の策定過程から完成までの全段階において、施設計画の具体的な内容・デザインにつき、区民や利用者、区内の専門団体等との意見交換や要望等の採取・反映を行わないままで終わってしまうため、善処を強く要望します。

<\*注：より融和的な英国のCABEの例もあります。>

### 2. 区民や区内外の関係者に対しての、計画の具体的な内容の効果的な広報について

広く区民や利用者からの建設的な意見を反映させ、この計画の成果が真に地元のものとなるには、計画案の具体的な内容を、これらの人々へと効果的に広報する必要がありますので、そのような広報の推進を強く要望します。

なお、私どもにもその一手段としてのWeb上のセミナー方式などでの支援の用意のあることを、重ねてお伝えしたいと存じます。

以上